

辺の学 渡辺の学 富士山

この夏、富士山8合目以上に登った人は昨年より8千人少なくなりました(環境省調べ)。山梨県側は1万人減の17万9千人、静岡県側は2千人増の13万1千人。四つの登山道の合計が最多だった7月14日には1万人が登りました。「信仰の山」への適正な登山者数だと思われませんか。登山者数は2008年から13年までの6年間、30万人前後。以前は20万、25万人でした。近年の世界文化遺産登録への関心の高まりが、登山者数の増加にも影響し、環境被害をも深刻化させています。

過大で無秩序な登山者数



渡辺豊博さん

国際記念物遺跡会議(イコモス)からは登録時に「夏の膨大な数の登山者の来訪と、それを補助するための山小屋、ブルドーザー道、落石防止のコンクリート壁などが富士山の精神的な雰囲気反している」と指摘され、許容定員の調査に基づく「来訪者管理戦略」をまとめるよう勧告されています。

これは、富士登山者数の実態が、他の世界遺産地区や世界の山の環境保全基準と比べても、いかに過大で無秩序なものなのかを厳しく指摘して

山小屋・トイレ…20万人適正

いることに他なりません。

8月下旬に吉田・富士宮両ルートに登山しました。6年前と比べて登山道が広がり、凹凸や侵食が激しく、斜面には落石の危険もある巨石が多く点在していました。30分進むのに30分以上かかる場所もありました。下山者とのすれ違いや追い越しなどが頻繁に重なり、滑落などの危険も感じました。

が、適切な登山者数を算出し、規制を検討するという話をしましたが、具体策は示されていません。

保全のためには「入山規制」の導入が必要不可欠です。4ルートの登山者数の時間帯別の動向や混雑場所などを総合的に分析し、適正な登山者数を算出しなければなりません。本来はこの夏、24時間態勢で多くの調査員を混雑箇所に置き、正確な実態把握や、登山者への聞き取りをする必要があったと思います。

各ルートの登山者の動向が適正に管理できる新しい「コントロールシステム」ができれば、事故への対応を含め、抜本的な保全の仕組みができていきます。富士山には利害を優先せず、長期的、総体的な視点と戦略を持った大胆な取り組みが求められています。

これが、世界遺産に登録された山の登山道の実態かと思われ、世界一「危険な山」と感じました。山梨、静岡県は入山料(保全協力金)の試験徴収やマイカー通行の規制強化などを進めましたが、抜本的な対策としては不十分です。9月には横内正明知事

私が考える適切な登山者数・許容定員は、4登山道の山小屋42軒の収容能力とトイレの処理能力から算出し、全体で20万人程度だと考えています。将来的には、4

(わたなべ・とよひろ
都留文科大教授)